

令和8年度 神奈川県立平塚看護大学校  
総合型選抜入学試験 筆記試験 問題用紙

注意事項

- \* 指示があるまでは中を見てはいけません。
- \* 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- \* 問題用紙と解答用紙それぞれに受験番号、氏名を記入してください。
- \* 必要に応じて問題用紙の余白や裏面にメモをとることは構いません。
- \* 試験終了までは原則として退場を認めません。

受験番号	氏 名

[問題] 以下の **会話 I** ・ **会話 II** では、三人の学生（平塚君、藤沢君、二宮君）が、「フェイクニュースの規制」について話し合っている。「フェイクニュース」は、広い意味では虚偽の情報を指すが、定義があいまいだという指摘もある。話し合いの中では「フェイクニュース」とは何か、より明確にすべきではないかということも議論される。これをよく読んで後の問1～問4に答えよ。

### 会話 I

- 平塚 「やっぱり、フェイクニュースは厳しく規制すべきだと思う。」
- 藤沢 「どうしてそう思うの？」
- 平塚 「最近、SNSで広がったデマが原因で人が大勢集まって、パニックになる事件が多い。事実ではない情報が無責任に拡散されて、社会全体が混乱するのは問題だよ。」
- 二宮 「それは確かにありがちだ。ネット時代には根拠のない情報が大きな影響力、しかも悪い影響力を持ってしまうことが多い。」
- 藤沢 「しかし、具体的にどうやって規制するのか？政府やSNSの運営会社が情報の真偽を判断して削除したり、発信した人を罰したりするということ？」
- 平塚 「そう。少なくとも人に危害が及ぶものはしっかり取り締まるべきだと思う。そうしないと、デマがどんどん拡散されてしまう。」
- 藤沢 「そうした規制は『表現の自由』を侵害することにならないだろうか。政府とか一部の人が、『これは嘘だ』と勝手に決めてしまうのは、すごく危険だと思う。」
- 二宮 「たしかに、その懸念も分かる。例えば、昔の歴史を振り返っても、国によっては都合の悪い情報を隠したり、弾圧したりしたことがあった。」
- 平塚 「しかし、今の日本の状況を見ても、明らかに嘘と分かる情報による悪影響が野放しにされているのはおかしい。たとえば、有名人が亡くなったというデマとか、災害の時の偽情報とか、普通の人々が信じてしまっただけでパニックになることもある。」
- 藤沢 「それは確かに問題だけど、規制したからといって解決するのだろうか？逆に、規制が強くなりすぎると、本当のことまで隠される可能性もある。例えば、『政府にとって都合の悪い真実』まで『フェイクニュース』とみなされて消される、とか。」
- 二宮 「二人とも、立場は違うけどすごく大事なことを言っていると思う。」
- 平塚 「二宮君はどう思うの？」

### 会話 II

- 二宮 「規制について考える前に、フェイクニュースとは何かを明らかにしておきたい。自分では正しいと信じて発信した情報が結果的に誤っていた場合と、最初から人をだますつもりで虚偽だと分かっている情報を故意に発信した場合は区別すべきだと思う。僕は『フェイクニュース』という言葉の後者の意味に限定して使いたい。」
- 平塚 「確かに、その方が『フェイクニュース』の語感には合いそうな気がするけど、その区別

には問題があるよ。最初の発信者は明確に人をだます意図があったけれど、それを拡散する人は本気でその情報を信じている場合もあるからね。それよりも、僕は情報自体の質で区別した方が規制の話につながりやすいと思う。明らかに人命や社会秩序に関わるような、悪質なデマだけを『フェイクニュース』と定義して規制の対象にし、それ以外は表現の自由を守るといえるのはどうだろうか。」

藤沢 「そういう明確な基準を作ることはできるのかな？例えば昔アメリカで実際にあった『火星人が攻めてきた』という偽のニュースは、今だったら他愛のない冗談として受け取られるだろうけど、当時はパニックを引き起こしたらしい。ある情報が社会秩序にどんな影響を与えるかということは拡散されなければわからないから、事前に基準を作るのは無理だと思う。やはり、フェイクニュースはシンプルに『虚偽のニュース』と定義するのがいいのではないだろうか。」

二宮 「いや、それこそ明確な区別をすることはできないよ。例えば『ワクチンの副作用』についても、『これは虚偽だ』と判断するのはすごく難しいと思う。科学的な議論がまだ続いていることもあるし、意見が分かれる話題も多いから。」

平塚 「今、<sup>1</sup>僕たちはそれぞれ『フェイクニュース』を定義しようとしたけれど、三人ともうまくいかなかったみたいだね。それだけ定義が難しいということが分かったわけだ。でも、どの定義でも『フェイクニュース』と呼びうるもの、たとえば『〇〇駅で爆破事件があった』とか、影響力の大きい悪意の作り話などは規制・削除してもいいのではないか？」

二宮 「そうだね。特にすぐに影響が出るものには緊急対応が必要だと思う。でも、曖昧なものや、意見が分かれるものはどう扱うか、慎重に考えないといけない。」

藤沢 「そうそう。だからやっぱり、情報を受け取る側のリテラシーを高めることが大事だと思う。僕たち一人一人が、情報の真偽を自分で見極める力を持つことが、<sup>2</sup>規制よりも効果的なんじゃないかな。」

平塚 「確かに、リテラシー教育はすごく大事だと思う。でも、現実問題として、ネットを使う人全員が高いリテラシーを持つわけではないし、特に高齢者や子どもは、デマにだまされやすいのではないか？」

二宮 「だから、たとえば学校教育や地域活動で、もっと情報リテラシーを教える機会を増やしたり、SNS側で『この情報は疑わしい』と注意喚起する機能を強化したりするのはどうだろうか？」

藤沢 「それは賛成。『規制』より、『注意喚起』とか『啓発』の方が、表現の自由も守れるし、長い目で見れば社会全体のリテラシーも上がると思う。」

平塚 「でも、それだけで本当に十分なのかな？たとえば、明らかに悪意を持ってデマを流している人や組織がいる場合、注意喚起だけじゃ止められないこともある。実際、海外では選挙の結果に影響を与えた事例もある。」

二宮 「そう。だから、最終的には『啓発』と『限定的な規制』の両方を組み合わせるのが現実的かもしれない。悪質なデマにはしっかりと罰則を設けるけど、それ以外ではできるだけ表

現の自由を尊重する。あと、規制する場合も、誰か一人の判断じゃなくて、複数の専門家が議論したうえで決定する、とかね。それに透明性も大事だと思う。たとえば、『このニュースを削除した理由』を必ず公表するとか。」

平塚 「ただ、ネットで誰でも発信できる今の時代だと、専門家よりも印象的な言葉を使うインフルエンサーの方が影響力を持ってしまう。分野を問わず、専門家が昔ほどの権威をもちにくくなっている。このような状況だと、専門家が議論して規制を決定しても、納得しない人が多いのではないか。」

藤沢 「透明性については、発信する場の運営者が私企業である場合、理由を公表せずに規制・削除してしまうことがある。それを防ぐことは難しい。」

問1 **会話Ⅰ**の中で、平塚君と藤沢君はそれぞれフェイクニュースの規制についてどのような主張をしているか。その根拠も含めて説明せよ。

問2 傍線部1「僕たちはそれぞれ『フェイクニュース』を定義しようとしたけれど、三人ともうまくいかなかった」とあるが、これはどのようなことか。平塚君、藤沢君、二宮君がそれぞれフェイクニュースをどのように定義しようとしたのかを明らかにしつつ、説明せよ。

問3 傍線部2「規制よりも効果的」とあるが、**会話Ⅱ**では、最終的に規制にどのような問題点があると指摘されているか。平塚君と藤沢君の発言に注意して説明せよ。

問4 フェイクニュースの規制についてどう考えるか。**会話Ⅰ**・**会話Ⅱ**を踏まえ、自身の考えを300～350字で述べよ。その際、「フェイクニュースの問題点」「規制をすることの問題点」のそれぞれについて、自身の立場を明らかにすること。また、自身で考えた具体例を必ず示すこと。